

成果と課題

これまで述べた各教科での実践例は、実践研究講座に参加した先生方が、学習指導と評価の在り方について研究したことを基に、各学校の実態に合わせて授業実践したものである。以下にその成果と課題について述べる。

1 成果

- 評価規準や指導と評価の計画を作成する際のポイントや手順を基に、適切な評価規準を作成することができた。
- 授業前の評価規準や指導と評価の計画を作成する過程で、指導目標を明確にすることができるとともに、生徒の目標の達成状況を見取る場や方法、及び見取った後の生徒への手だてや方策など、授業の具体的なイメージをもつことができた。
- 評価規準や指導と評価の計画を作成したことで、授業中にその都度生徒の学習状況を見取ることができ、評価を生かした指導を行うことができた。
- 授業後、教師自身が指導計画や指導方法を振り返ることで、生徒への手だてや方策などを一層考えるようになり、評価を教師の指導改善に生かすことができた。また、生徒は授業が分かることにより学習意欲が高まった。
- 1単位時間での評価項目を重点化したことで、これまで以上に生徒一人一人の学習状況を見取ることができるようになり、1単位時間の評価の観点を1, 2に絞ることの大切さを実感できた。
- 評価方法の工夫改善では、自己評価を通して生徒の評価力を向上させることができた。また、自己評価票に、評価規準とのつながりを考えて評価項目を設定して振り返らすことで、生徒が客観的に自分の学習状況を判断できるようになった。

2 課題

- 教師の評価力の向上を図るために、今後も校内研修会等で評価規準の妥当性、生徒の学習状況の見取り方についての研究を深める必要性を感じた。
- 生徒にも客観的な自己評価ができるような自己評価力を育成するために、今後一層、評価方法について研究する必要性を感じた。